

様式1 令和元年度 山梨県立上野原高等学校学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	校訓「叡知創造」の精神のもと、21世紀をたくましく、心豊かに生き抜き、社会の進展や調和に貢献できる人間を目指す	
本年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 学習習慣の確立と確かな学力の定着を図り、個々に応じた進路実現をめざしたキャリア教育の充実を努める。	B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 生徒会活動を活性化するとともに、諸活動をとおして心身の健やかな成長を図る指導に努める。	C 不十分である。(4割以上)
		D 達成できなかった。(4割以下)

山梨県立上野原高等学校校長 小佐野 景實

4	良くできている。
3	できている。
2	あまりできていない。
1	できていない。

本年度の重点目標			自己評価		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度
1	基本的生活習慣の確立と、安全管理・規範意識の高揚を図る指導に努める。	① 自己管理能力の育成を図り、遅刻や欠席、朝食の欠食を減らす基本的生活習慣の確立を図る指導	学校評価アンケート等	(評価点) ・生徒による評価 「開始時刻着席」(83) 「校則を守る」(75) 「朝読書・朝の学習(ブレス)」(70) といずれも高い評価となった。	A
		② 法令遵守及び社会規範への意識を高め確立を図る指導	学校評価アンケート等	・保護者による評価 「校則規範意識」(53) 「毎朝朝食摂取」(50) 「保護者の意見や要望が伝わる環境がある」(50)が上位3項目であった。	
		③ 節電・節水、ごみの分別などを通じて、環境美化を意識させる指導	学校評価アンケート等	・教員評価は、「基礎基本授業改善と工夫」(59) 「教育目標・指導重点理解」(59)が上位の評価となった。	
2	学習習慣の確立と確かな学力の定着を図り、個々に応じた進路実現をめざしたキャリア教育の充実を努める。	① 家庭学習と授業の一体化を進め、確かな学力の定着を図ると共に、学ぶ意欲を高め、主体的・協働的な学びを深める指導	授業アンケート等	(評価点) 生徒による評価 ①「課題や宿題をやって提出」については、H30冬(67)→R1冬(62)とやや減少。一方「課題がなくても自主的に」は、H29(11)→H30冬(12)→R1冬(3)と下降傾向。評価も高くない。保護者評価「家庭学習習慣がある」(6)もこれに連動し低評価となった。	B
		② 相談活動及び個々に応じた指導の充実を図り、個々のキャリアを形成していく進路実現を図る指導	産業界と人間、総合的な学習の時間での指導	②「選択科目が自分の進路に合っている」(61) 「進路目標や進路先を考察している」(62)と生徒評価はこれまで通り高く、キャリア教育の指導の効果がみられる。	
		③ 主権者教育や社会参画・地域連携事業を通して、未来を担う公民としての資質を育む指導	行事アンケート等	③主権者教育は該当教科における授業実践と選挙講座の二本柱で継続して実施した。2年次対象の講座では、「選挙で社会は良くなる」が事前より22ポイント、「選挙の投票意欲」が13ポイント増加した。また3年次の授業の一環として、市議会傍聴を1回行い、主権者意識の向上を図ることができた。さらに、やまびこ支援学校との一日交流では、参加生徒全員に、多様性を尊重し、共生社会を生きる自覚を育成することができた。	
3	生徒会活動を活性化するとともに、諸活動をとおして心身の健やかな成長を図る指導に努める。	① 文武両道の実践に向けた指導と各部の目標達成への積極的且つ規律ある部活動の指導	学校評価アンケート等	(評価点) 生徒による評価 ①「学校生活が楽しい」(61)は変動なし。高い評価となった。 「部活動に積極的に参加」は、H30冬(57)→R1冬(43)と下降した。 保護者評価は、「部活動が盛り」(29)とこれまでより評価は高くはなかった。一方で教員評価は「規律ある部活動の指導」H29冬(45)→H30冬(39)→R1冬(39)、「文武両道の実践に向けた指導」H29冬(35)→H30冬(18)→R1(32)と回復傾向にあった。	B
		② ホームルーム活動をとおして活力あるクラスづくりを目指すと共に、いじめをなくし生命と人格を尊重する態度を育てる指導	心ボックスやいじめアンケートの活用	②生徒は「クラスが結束している」(61) 教員評価の「活力あるクラスづくり」(42)は、H30より9ポイント増加したが、依然として、教員と生徒の意識のちがいが認められた。	
		③ 集団活動や種々の読書活動をとおして、思考力・判断力・表現力などの育成を図り、他と協働し協力し合うなど、思いやりのある心を育てる指導	学校評価アンケート等	③朝10分間読書(46) 朝の学習・プレスタ(51)への取り組み指導(教員)は概ね達成できた。「いじめや不登校の未然防止に努める指導」R1冬(48)、生徒評価は(37)と例年と同じ傾向だが、保護者は「いじめ防止に努めている」R1冬(7)と、より厳しい見方をしていることがわかる。	

学校関係者評価	
実施日 (令和年2月20日)	
評価	意見・要望等
4	・規律・道徳などの高評価な項目については、継続性を持って指導をしてほしい。 ・朝の学習(ブレス)が週3回実施となっているが、マンネリ化しないように。その取り組みの先に具体的な目標が必要である。漢検・英検・数検など成果が測定できるものがあると良い。 ・節電節水のみならず、災害に対する家庭での話し合いが重要。上野原周辺のハザードマップを活用すると良い。そのきっかけ作りを学校からお願いしたい。 ・スマホ等の使用については、依存症にならない指導と犯罪に巻き込まれない意識を育ててほしい。スマホで読書できる時代にあつては、多くの情報を見極める力が必要と考える。
4	・家庭学習の習慣化は、教師が意図して出した課題と学校の授業が連携して、次の授業が進められるのが理想である。課題の充実をお願いしたい。またスローラーは、「学習の仕方・方法がわからない」「自分ごとがわからないのが嘆息」などの実態がある。その支援をすることが重要。 ・シラバス等で進捗状況を生徒に把握させると共に、評価規準についても理解を深めることが必要と思う。また授業等での導入時に、到達目標を具体的に生徒に指示し、言語活動等を促し気づきを促すことが大切と考える。さらに生徒の生の声を拾って、授業に反映させる実践を望む。 ・学校の取り組みにPDCAサイクルを取り入れ、カリキュラムマネジメントの意識と育成を行っている点は評価したい。授業改善の中で、地域の中学校との連携を図れるようにすると良い。 ・総合学科発表会への取り組みの深化と発展を望む。さらに深みのある調査や研究を目指してほしい。外部指導によるプレゼンテーション指導や資料作成の手立てがあっても良いかなと思う。 ドリカムシステムの成果は、地域や社会にもっと発信してほしい。 ・授業については、できる→楽しい→意欲的に取り組む→予習復習という流れが理想である。生徒が内容を納得する経験を多く積み重ねていけるよう指導をしていくしかない。
3	・部活動が困難の時だからこそ、先生方と生徒で叔智を出し合って、取り組みの過程を大切に実践をお願いしたい。学園祭は大いに盛り上がる行事と思うので、集団を活性化するきっかけとしてほしい。 ・生徒に対してきめ細やかな指導を徹底していることを外部にもっとアピールすべきである。 ・PTA活動の内容にもよるが、保護者への働きかけが重要であるので、工夫して活性化に取り組んでほしい。 ・大学の図書館には書籍をはじめ文化的価値の高い資料も豊富である。また地域の団体等とも連携し、生徒や教師がそれらを利用する方法も考えられると思う。